

令和元年度第33回卒業式

○ 校長式辞

皆さんは、暁中学校の伝統を受け継ぎ、さらに発展させてくれました。2年生の職場体験学習や名古屋分散学習では、生き生きと活動する皆さんを見ることができました。3年生の修学旅行では、見学地や観光地で出会った皆さんの本当に楽しそうな姿を思い出します。最後の学校祭では、最上級生にふさわしい態度で取り組みました。文化祭の生徒会企画は、大いに盛り上がりました。そして、初めて取り組んだ、保育園の避難訓練の付添い、中学生の皆さんが、保育園児と手をつなぎ、歩く姿はほほえましさや頼もしさを感じました。2年間を通じて皆さんに感じたことは、本当に温かい雰囲気のある学年集団であったことです。3年生の先生方の温かい思いを素直に受け取れる皆さんだったからだと思います。

さて、本校の合言葉は、「時を守り、場を清め、礼を正す」と「凡事徹底」です。「時を守り、場を清め、礼を正す」は、集団生活の基本である学校で、大切にしたい心構えです。また、「凡事徹底」は、皆さんが2年生になったとともに加えたものです。「当たり前のことを当たり前にできる」という意味ですが、本校では、「誰にでもできることを誰にも真似できないくらいやり続ける」を目指しています。誰にでもできる小さなことでも、徹底してやり続けられれば、やがて大きな力になります。これからの人生においても本校の二つの合言葉をぜひ大切にしてほしいと思います。

長田弘さんの詩集「深呼吸の必要」から「あのときかもしれない」という詩の一部を紹介します。

きみはいつおとなになったんだろう。
きみがいつ子どもになったかなら、きみはちゃんと知っている。
それは、きみが歩けるようになり、話せるようになったときだ。
二本の足でちゃんと立ってちゃんと話せるようになったとき、
きみは赤ちゃんから一人の子どもになった。
それに、君がいつ赤ちゃんになったかなら、正確にその日に
ちまで知っている。それはきみが生まれた日、きみの誕生日だ
で、いつ、きみは子どもからおとなになったのか。あのとき
だろうか。
ほんとうに、いったいいつだったんだろう。
きみはある日、突然おとなになったんじゃない。
気がついてみたら、きみはもうおとなになっていた。なった、
じゃなくて、なっていたんだ。

皆さんは、これから自分の夢や希望を実現させていく時期となります。しかし、必ずうまくいくとは限りません。ひょっとしてうまくいかないことの方が多いかもしれません。皆さんがこの後の合唱曲「いのちの歌」の歌詞の中に、「泣きたい日もある、絶望に嘆く日も」とあります。いくつもの苦しいこと、うまくいかないことを乗り越える経験をするうちに、「大人になっていた」自分に気付くと思います。皆さん、ぜひ素敵な大人になって、自分の人生を輝かせてください。

○ 卒業生のことば

初めて制服に袖を通し、緊張しながら校門をくぐった入学式。小学校で一緒に遊んでいた上級生の先輩方が、とても大人っぽく、大きく見えたのを今でも覚えています。そんな中、期待と不安を胸に僕たちの中学校生活が始まりました。4月のオリエンテーションでは、クラス対抗で必死に校歌を覚え、大きな声で歌いました。それからは、初めてのことばかりで、戸惑う場面もたくさんありましたが、一つ一つの行事を経験するたびに、少しずつ自信につながっていきました。

2年生になり、中学校生活に慣れてきたころ、「職場体験学習」をさせていただきました。体験先では、僕たちを生徒ではなく、一人の社会人として、仕事の大変さや、楽しさを親切に教えていただきました。僕達は、それにこたえようと、必死にくらいつき、自分の成長につなげることができました。そして、改めて地域の方々や、先生方に感謝の気持ちをもつことができました。3年生になり、全ての行事を自分たちが中心になって進めていくようになりました。2年生の時からみんなで計画をたて、楽しみにしてきた修学旅行。友だちと一緒に、ドキドキしながら慣れない東京を班分散で回りました。班のメンバーとはぐれてしまった時は、不安で焦っていましたが、臨機応変に行動し、なんとか皆と会うことができ、安心したのを覚えています。修学旅行を通して、仲間の新たな一面を発見し、



いっそう、絆を深めることができました。二度と忘れることのない思い出を作ることができました。そして最後の学校祭。三年間の集大成です。どのクラスも、優勝を目指し、夏休みから準備をしてきました。体育祭の全員リレー。君の大きく広げられた左手に、僕が押し出すように渡したバトン。GOというかけ声をしながら、自分達が納得いくまで、何度も練習をしたことを、今も鮮明に覚えています。文化祭の合唱。教室や廊下でラジカセの周りに集まって、顔を向かい合わせて歌うと不思議に、音が取れるようになりました。本番では、皆で最高のハーモニーを響かせることができました。クラスの皆と心から協力し、最後には笑顔で終わることができました。そして、何より頑張ったと言えるのが、部活動です。サウナのように暑苦しい体育館で汗を流したこと、冬の冷たさに心が折れそうになったこと。最後の大会の張りつめた緊張感。試合終了を告げる笛と共にこみ上げてくるのは悔しさではなく、仲間の顔でした。つらい練習も声をかけ合い、励まし合って乗り越えた仲間。ライバルとして競い合った仲間。時に意見が食い違いけんかをした仲間。最後には目標に向かって一丸となった仲間。その仲間達と過ごした時間が何よりも心を震わせ、涙が止まりませんでした。こうして僕らの青春が詰まった試合は幕を閉じました。僕達の心と体を鍛えてくれた部活動。そして体育館、運動場、教室。僕達はさまざまな場所で、間違いなく、思い出を刻みました。

そんな日々の中に、僕達にはたくさんの仲間、先生方、家族からの温かな愛をいただきました。まず、共に過ごした仲間へ。皆と過ごした毎日は、たくさんの笑顔であふれていました。ふざけ合ったり、休み時間に集まって話をしたり、ちょっとしたことでけんかしたり・・・。そんな毎日は僕の大切な宝物です。明日からは別々の道を進むことになります。悲しいけれど、僕たちの友情、絆は決してなくなるならない。「また、いつか、どこかで会いましょう」。1・2年生の皆さん、僕たちは君達のよい先輩になれたのでしょうか。これからは君達がこの暁中学校を次の時代へ引っ張っていく番です。この学校がよりよくなるよう頑張ってください。3年間いつも僕たちの近くで見守ってくださった先生方へ。個性あふれる先生方ばかりで、いつも学校へ通うのが楽しみでした。そんな先生方には、毎日楽しく勉強を教えていただいたり、厳しく真剣に僕たちと向き合ってくださいたりしました。先生方がいてくださったから、今の僕たちがあると思います。次にお会いするときは、おそらく、今より背も高く、顔つきも変わっていることでしょう。その時に、心も立派な大人になったんだ」と胸を張っていえるようにいっそう努力し、もっと成長していこうと思います。本当にありがとうございました。

そして最後にお父さん、お母さんへ。これまでたくさんの心配をかけ、時には傷つけることを言ったこともありました。僕は今とても後悔しています。ですが、そんな僕を決して見捨てず、どんな時でも傍にいて、一番近くで応援してくださったのは、お父さん、お母さん、あなたたちです。申し訳ない気持ちと、感謝の気持ちでいっぱいです。これから先も、たくさん心配をかけるかもしれませんが、あなたたちの自慢の息子になれるよう頑張りますので、よろしく願います。

いよいよ別れの時がきました。この暁中学校で過ごした三年間、この三年間があるからこそ、どんな困難も乗り越えていけると信じています。最後に、たくさんの出逢いをくれた暁中学校、本日ご参列いただいたすべての方々に感謝の気持ちを込めて、関洋子さんの詩を送ります。

「出逢い」

あなたに出逢えてよかった しみじみとそうおもう
あなたに出逢えてよかった ありがとう ありがとう
すべてのふりかえる道が この道へ続いていたと思える日は
こころがなんどでもくりかえす ありがとう ありがとう



○ 在校生送辞 ※ 在校生の出席中止のため、3年生の教室に掲示しました。

思い起こせば、先輩方と過ごした学校生活は、たくさんの思い出であふれています。そして一つ一つの思い出をふり返ると、いつも一番に思い出されるのは、先輩方の「優しさ」と「仲間との団結力」です。僕たちが入学して間もない頃、慣れない環境で不安を感じていた僕達を、先輩方は優しい雰囲気ですててくださいました。先輩方の優しさに包まれることで少しずつ緊張がほぐれ、中学校生活へなじむことができたのを覚えています。

学校祭では、仲間と団結することの素晴らしさを教えてもらいました。体育祭では、お互いに励まし合い、全力でフォローする姿や、共に勝利の喜びを分かち合う姿が、それぞれのクラスで見られました。仲間を思いやり、仲間と団結した先輩方は、いっそう輝いていました。文化祭の合唱コンクール。いつも仲のよい先輩方も、この日だけはライバルです。今日は負けられない、そんな気迫が見ている僕達にも伝わってきました。自分たちの発表を終えた後は、他クラスの発表を真剣に聴き、素晴らしい合唱に対して拍手を送るなど、礼儀を欠かす事はありませんでした。僕達が先輩方と多くの時間を過ごしたのは、部活動でした。上手くできず落ち込んでいたとき、優しくアドバイスをくださいました。また言葉だけでなく、一生懸命練習に取り組むその姿勢も、僕達を引っ張ってくれるよき手本でした。先輩方にもつらい時期、苦しい時期があったはずですが、いつも僕達を気遣い、優しく導いてくださった姿を、今でも鮮明に覚えています。どの部活動でも先輩方は、僕達在校生の憧れだったと思います。ですが、そんな先輩方とも、別れの時が迫っています。今度は僕達が、先輩方から教わった、仲間を思いやり助け合うことで生まれる団結力と、言葉だけでなく行動で示す優しさを、後輩たちに伝えていかなければなりません。それらを先輩方から受け継ぐ伝統のたすきとして、次の世代へとつなげていきます。

これから先輩方の未来は、明るく輝き、希望に満ちたものであると思います。しかし、時には苦しく、壁にぶつかることもあるかもしれません。そんな時は先輩方の学年目標である「クライマー」の意味を思い出してください。クライマーは絶壁などの険しい道を自分の力で切り拓いていきます。それはこれからの先輩方の姿と似ているように思います。もしかしたら、悩み、苦しむことも、この先の道に待っているかもしれません。ですが決して下を向かず、上だけを見つめてください。時に仲間と協力し合い、目指すべき場所まで登りきって下さい。

